

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和6年度学校評価 結果 学校関係者評価

達成度（評価）	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	神埼市立脊振小学校
1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> 豊かな自然に囲まれた環境を生かした体験学習や地域と一体となった様々な交流活動を通して、それらを支えてくださる方々への感謝の気持ちをもちとともに、故郷を愛し、自ら考えて行動する児童を育成していきたい。 今年度も児童が主体的・対話的で深い学びができるよう工夫した授業づくりに努めてきた。特に、振り返り活動に重きを置き、児童のメタ認知を高めるとともに、基礎的・基本的な学力の向上を目指してきた。次年度は、少人数であっても互いの考えや思いが深まるようなより効果的な話し合い活動を仕組み、児童の主体的・対話的で深い学びの実現に努めていきたい。 ほぼ全校児童が友だちとコミュニケーションをとりながら、落ち着いて学習したり、生活したりするなど楽しく学校生活を送っている。今後も、お互いを認める支持的な風土づくりや少人数の人間関係づくりに努めていきたい。
2 学校教育目標	脊振を愛し 進んで学ぶ たくましい子どもの育成
3 本年度の重点目標	<p>①個別指導の工夫と話し合い活動の充実により児童が主体的に学ぶことができるようにし、深い学びを実現するための授業改善を進める。</p> <p>②誰もが安心して学べるように安定した支持的風土を確立させ、自ら考えて行動できる児童の育成を図る。</p> <p>③連携教育の質の向上を図り、郷土や学校を愛する児童の育成を図る。</p>

4 重点取組内容・成果指標	中間評価	5 最終評価
---------------	------	--------

(1)共通評価項目									
評価項目	重点取組		具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価	
	取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言
●学力の向上	○(学校独自重点取組) ・指導方法の工夫・改善、ICT利活用等を図り、学ぶ楽しさを実感する授業の実現を目指す。	○(学校独自成果指標) ・話し合う活動を通して、「自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」と思う」と回答した児童を70%以上	・「授業づくりのステップ1・2・3」の3を意識し、「脊振小授業スタイル」の中の対話的な活動の充実を図る。 ・単元を通した「めあて」「まとめ」「ふりかえり」の一体化を図り、学びの自己評価を行う。	B	・「教材研究を十分に行い今年度の研究内容を意識した授業に取り組んでいる」職員は100%であった。脊振小授業スタイルで授業実践ができている。 ・保護者アンケートで「家庭学習の習慣が定着しているか」が78%、「家庭で進んで読書をしているか」56%であった。今後、家庭への啓発を図る。	A	・「友だちの発表や考えを、自分の考えに取り入れられたいけ加えたりしている」児童が92%だった。話し合い活動によって、考えの深まりや広がりがみられた。 ・単元全体などの大きく「学習課題」を立てることや、単元の終盤での「学習の振り返り」を行うことができている職員は100%であり、授業力の向上がみられた。	A	・各学年の児童数が減少している中、工夫を凝らして話し合い活動に取り組んでいる。 ・一人一人に添った指導(個別対応)、きめ細かい指導を行っている。 ・タブレットや電子黒板、黒板を効果的に活用し、授業の構造化も図られている。また、掲示物も学力向上につなげる工夫がある。低学年の書く活動の確保も必要。 ・今後も継続的に家庭学習の啓発を行ってほしい。
	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○神埼市の「四か条の誓い」や脊振小「石の門の教え」をもとに、感謝の気持ちや礼儀正しさ、思いやりの気持ち等を育むために、教育活動全体を通して繰り返し指導し、90%の児童が生活の中で意識して実践できるようにする。	・人権集会・教室の実施 ・全校「ほかほか広場」(友達の良い行動の紹介)に1年間通して取り組み、定期的に児童からカードを紹介する時間を設け、友達の良さ見つけようという意識を高めていく。 ・「特別の教科 道徳」についての校内研修等を行う。	A	・人権集会、人権教室等を学期に2回ずつ実施できた。安心・自信・自由の権利を児童が意識できている。 ・児童が月に1回「ほかほかカード」を放送したことにより、お互いの良さを見つけようという意識を高めることができた。 ・学校評価アンケートにおいて「教育活動全体を通して、礼儀・思いやり、感謝の気持ちや育んでいる」と肯定的に回答した保護者が100%であった。	A	・児童のお互いの呼び方や言葉遣いが良くなった。 ・児童が意見交流の際に、自分と違う意見を言われた際に否定せず、理解しようとする姿が見られるようになった。 ・道徳教育の校内研修を実施し、学んだことを職員は授業で実践している。 ・児童は、石の門の教えを朝の会などで暗唱し、意識している。石の門の教えは石のめあてに反映されており、児童は毎日自分の生活を振り返ることができている。	A	・元気に挨拶してくれる児童が多く、日頃からの指導が十分なされている。今後も「石の門の教え」を伝えてほしい。 ・子どもたちが互いに声を掛け合う姿が見られ、思いやりの気持ちが育っている。日頃から人権に対する取組が十分なされていることが、掲示物からも伺えた。 ・学校全体で相談しやすい雰囲気づくりを築き、子どものことを大切にしたい対応がなされている。
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○いじめ防止について組織的対応ができていると回答した教員90%以上	・毎月1回、全職員が情報を共有するために連絡会を行い、組織での対応を進める。	A	・児童の様子について、情報共有の時間を設け、全職員が共通理解をした上で、児童の対応にあたることができた。「生徒指導や保護者との連携において組織的にできている」と肯定的な回答をした職員は100%であった。今後も早期発見・早期対応を心がけ、いじめ防止についての意識を高めていく。	A	・毎月1回、生活の反省と児童の様子について情報共有をする時間を設け、職員共通理解のもと、個に応じた対応にあたることができている。会で出された情報は、データで保存し、経過をみながら、組織的・継続的に児童対応ができるよう、全職員がいじめ防止への意識を高く持っている。	A	・上級生と下級生が一緒に過ごしているところをよく目にする。小規模校の良さが生かされている。 ・子どもの生活をよく観察し、丁寧な見取りのもと、細かな対応をされていると感じた。 ・いじめに対して保護者と連携がなされており、アンケートからも未然防止・早期対応ができていると感じた。今後もこれまでに以上に保護者との連携を図ってほしい。
●心の教育	●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「先生は、学校の勉強を分かりやすく教えてくれる」(「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童90%以上) ●「学習や読書に進んで取り組んでいる」(「将来の夢や目標を持っている」)について肯定的な回答をした児童90%以上	・児童の資質・能力及び自己肯定感を育む授業づくりに関する校内研修等の実施 ・授業及び各種体験活動において、児童に活動の見通しと学びの振り返りを行わせるなど主体的に学ぶ態度を育成する。	A	・「夢や目標をもち学習や読書に進んで取り組んでいる」児童は90%。児童の資質・能力を育む授業づくりに関する校内研修を今後も実施していく。 ・「先生は学校の勉強を分かりやすく教えて、あなたのよいところを認めてくれている」について肯定的な回答をした児童は100%。今後も、様々な体験活動を通して、夢や目標の実現に向け主体的に取り組む姿勢を高めていく。	A	・将来の目標を持ち、学習に取り組む児童が増えた。 ・総合学習を通して、児童が希望町の良さを感じることができた。 ・自分の生活を学校の先生や地域の方たちと関わっていることに気づくことができた。 ・縦割り班で給食や体育大会や元気タイム、縄跳び大会を継続し、異学年が協力することができることも、上級生は下級生の手本となる行動を心がける様子が見られた。	A	・授業参観からも個々の意見や発言を教師がしっかりと聞き、個に応じた指導がなされていた。今後さらに読書の必要性を指導してほしい。 ・児童の目標が提示されていて、児童が常にそれを意識して生活していることが分かった。 ・学校と地域が連携して体験活動を充実させる手立てが十分に取られ、効果を上げている。今後も「地域人材バンク」を生かし、様々な体験活動に取り組んでほしい。
	○(学校独自重点取組・任意)	○	・	・	・	・	・	・	・
	●健康・体づくり	次の中から1つ以上を選択 ①「運動習慣の改善や定着化」 ②「望ましい生活習慣の形成」 ③「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」 ④「安全に関する資質・能力の育成」 ⑤「健康を考えて行動できる能力の育成」	●授業以外で運動やスポーツを行う時間が1週間で420分以上の児童60%以上 ●早寝早起き朝ごはんを意識し、毎食後に歯磨きをする児童70%以上 ●「健康に良い食事をしている」児童70%以上 ●児童生徒の交通事故を0(ゼロ)にする	・保健体育委員会を中心として、スポーツイベントを開催する。その際に、運動や遊びを推奨する声かけも行う。 ・児童の遊び場の環境整備や道具や器具の充実を図る。 ・毎朝の健康観察の時、朝食後に歯磨きできたがチェックをする。 ・朝食摂取が健康につながることを指導し、児童の行動の変容を図る。 ・避難訓練において、児童及び職員の動きの理解を図り、状況に応じた避難を実践させる。	A	・保健体育委員会を中心に、月に1度「げんきタイム」を全校で実施している。80%以上の児童が、休み時間を活用して外遊びを行うことができている。熱中症警戒アラートが出る日数も多く、外遊びができない日が続いたため、室内でできる遊びの工夫が必要。 ・「先生は生活の健康観察で、朝食をとった後歯磨きをして登校できた」と回答している。習慣化するよう指導を継続する。 ・全校児童を対象に保健指導で朝食摂取の重要性を伝えた。朝食チェックでは、ほぼ100%朝食の欠食がなかった。 ・避難訓練時以外でも、学期初めの職員の交通指導や下校時の交通安全についての指導などを継続して行い、児童の交通事故は発生していない。	A	・児童の90%以上が休み時間などを利用して、外で元気と進んでいると回答した。雨や雪の日でも、自発的に体育室で遊ぶ児童もいた。 ・毎朝健康観察時に、食後の歯みがきを意識させる声かけを継続している。12月の保護者アンケート結果、100%家で食後の歯みがきができていると回答していた。 ・早寝早起き朝ごはんの行動圏を図るため、全職員で教育指導に取り組んでいる。 ・年3回の避難訓練、交通安全教室を、計画的に実施することができた。日々の登下校の安全について、毎日指導を行っている。	A
○(学校独自重点取組・任意)	○(学校独自成果指標・任意)	・	・	・	・	・	・	・	
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・全体で定時退勤日を設定したり、職員一人ひとりが運動予定時刻を決めて勤務にあたりやすくなること、タイムマネジメント力を高める。 ・業務内容について職員で話し合い、スリム化及び平準化を図る。	B	・4~9月までの職員の時間外勤務平均は24.6時間で、前年度の同時期と比較すると、若干増えている。2学期は学校行事も多いため、健康管理に気を配りながら、職員のタイムマネジメント力を高めていく。 ・学校評価アンケートから見通しをもって業務に取り組むことと課題を抱えている職員もいる。職員全体で働きやすい環境、雰囲気を作りながら解消にあたりたい。	A	・職員の時間外勤務平均は24.2時間で、昨年度と比較すると若干多いが、職員数の減少に伴う業務分担の負担増や県からのアンケートの増加に伴う業務の負担増を考慮すると、職員は限られた時間を有効かつ効率的に活用し、見直しをもって職務の遂行にあたりたい。また、「健康障害防止のための自己チェック」の結果からも職員の精神的・身体的状態は概ね安定しており、職場環境及び雰囲気は良好と考える。	B	・小規模校のため先生の数が少ない中で、全ての業務を担うなど良く頑張っている。時間外勤務も全体的に少ないと思うが、管理職の負担軽減となるよう業務の精選に向けての意識の変革も必要かと思われる。 ・先生方も健康(心・体)には十分留意してほしい。
	○(学校独自重点取組・任意)	○(学校独自成果指標・任意)	・	・	・	・	・	・	・
●特別支援教育の充実	○教員の専門性と意識の向上(特別支援教育)	○特別支援についての研修を深め、学校級の指導にいかしているアンケートで回答した教職員が90%以上	・特別支援に関する研修会の実施 ・家庭、福祉、医療などの関係機関と連携し、必要に応じてケース会議を行う。	B	・7月末に外部講師を招聘しての特別支援教育研修会を実施した。職員の意識も高まった。 ・学校評価アンケートでは、肯定的な回答をした職員が88%であったが、「あまり指導に生かされていない」の回答もあったため、すぐに実践に生かせるような内容で、今後も研修を重ねていく。	A	・10月に教務主任主催で演習を交えながら「特別支援教育の目標」についての校内研修を実施した。一人ひとりが考える研修となり、職員の意識が高まった。 ・学校評価アンケートでは、肯定的な回答をした人が100%と向上した。 ・1年を通してケース会議も数回行い、いじめの防止に繋げることができた。また、医療機関とは文書を通しての連携を行った。	A	・1学級に1人であっても、きめ細やかな手立てをされながら充実している。そのため、特別支援学級の児童も熱心に学習する姿が見られた。先生方も様々な特性をもつ児童について考えていかなければいけないので大変かと思う。今後も小中の情報交換や共同研修を設定していただき、子どもたちだけでなく保護者とともに特別支援教育に関する知識等のスキルを上げてほしい。また、その学びを通常学級の児童の支援にも生かしてほしい。

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目									
評価項目	重点取組		具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価	
	取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言
○地域連携教育の充実	○地域連携力の拡大	○地域の方々との交流活動についてのアンケートで肯定的な回答が保護者90%以上	・ホームページのイベントギャラリーで地域連携教育活動の広報を月1回以上行い、チーム脊振の充実を図る。 ・人材バンクを整備するとともに、地域とのキャリアラムの直しや組織体制の確立を目指す。	B	・ホームページのイベントギャラリーで教育活動の広報を月2回程度行っている。「中学校や地域との交流活動は充実している」という保護者の高い評価を得た。深い学びにつながるよう「人材バンク」のより有効な活用を探っていく。	A	・年2回の学校評価アンケートを実施しているが、「中学校や地域との交流活動」に対し96%の保護者から肯定的な評価を受けている。今後も学校運営協議会等で「人材バンク」の機能を高め、さらに交流活動の質を上げていきたい。また、学校ホームページとの関係数も増加しており、保護者や地域のニーズに対応している。	A	・学校運営協議会を通じて「人材バンク」がアップデートされ、その活用や世代間交流が充実している。今後も持続可能な活動となるよう、子どもたちの学校生活の向上が図れるよう、脊振の特性を生かした育友会活動と連携したりしてほしい。
○	○(学校独自重点取組・任意)	○(学校独自成果指標・任意)	・	・	・	・	・	・	・

●…果共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育

5 総合評価・次年度への展望	<ul style="list-style-type: none"> 今年度は児童一人一人の特性に応じた学習指導など個別指導の工夫に努め、児童の学力向上や主体的に学習に取り組もうとする態度の育成を目指してきた。次年度は、児童の主体的な学びや基礎的・基本的な学力の向上に引き続き力を入れていきたい。 互いを認め合い、誰もが安心して学校生活を送れる安定した支持的な風土は確立されつつある。今後は、自分のために、学校のために、地域のために何ができるのか、何をすべきなのかを自ら考えて行動できる児童の育成を目指していきたい。 豊かな自然や心温かい地域の方々を支えられ取り組んだ体験学習や交流活動を通して、児童一人一人の感謝の気持ちやそれを表現する態度は高まってきた。今後は「人材バンク」の更なるアップデートを図り、中学生や地域の方々との連携を深め、脊振のよさを発信していく学校づくりに努める。これらの活動や交流を通して、郷土や学校を愛する、誇れる児童を育成していきたい。
----------------	--